

介護負担軽減に一役 新居浜の企業



センサー付きカップをおむつの要領で装着し、排せつ物を自動吸引する「スマイレット安寝」

排せつ物自動処理機開発

新居浜市のスマイル介護機器販売（近藤諭社長）が、排せつ物を自動処理する介護機器「スマイレット安寝あんしん」を開発し、このほど発売した。11月に都内であった国際ロボット展で、介護機器ロボットを紹介

する経済産業省のブースにも出展。同社は「夜間のおむつ交換が不要で介護の負担軽減につながる」としている。センサー内蔵のカップに専用の紙おむつを付けて着用すると、排便や排尿を感知してポ

ンプで吸引する。温水での洗浄と乾燥、消臭の機能も付く。カップとつながる本体に洗浄水タンクと排せつ物を集めるタンクを内蔵し、汚物はそのままトイレに流せる。福岡県の金型製造会社サンテックと共同開発し、同社が製造を担う。経産省産業機械課によると、便尿を同時に処理できる機器で実用化されたものは少なく、草分け的存在という。本年度の川崎市産業振興財団主催の「かわさき起業家オーディション」で起業家賞を受賞した。

価格は1台59万8千円。レンタルもでき、要介護4、5の認定で料金の9割が介護保険給付適用となる。年間2千台の販売を見込み、2015年2月期決算では売上高8億円を目指す。近藤

社長は「利用者の排せき、ニーズは高い」と話す。介護現場の人材不足にも貢献で

（相原清香）